

伊藤通玄先生をおくる

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-01-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 里村, 幹夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00000336



Mr. Ito

伊藤通玄先生をおくる

伊藤通玄先生は、1995年3月31日をもって停年退官されることになりました。

伊藤通玄先生は、1958年4月静岡大学教育学部助手に就任されて以来、教養部講師、同助教授、同教授として、37年の永きにわたり、地球科学の教育と研究にご精励になりました。教育面においては、教育学部では理科教材研究、地学実験と地学野外実習、教養部では一般教育科目の地学と理学部および農学部専門科目（共通）の地球科学実験、新カリキュラム施行後は、教養科目Bの地球科学、主題別科目の環境科学II、資源とエネルギーII、フレッシュマンセミナーを担当され、地球科学に関する豊かな学識と篤実な人格を通して、学生の教育と指導に尽力されました。また、課外サークル活動としての地学研究会を設立し、ほぼ20年にわたってその顧問として同会を育成・指導されました。

伊藤通玄先生のご研究の重要性は、自然災害や地域・地球環境といった人類生存に関わる今日の重要問題に早くから注目し、地域に根ざした地球科学を研究されてきたところにあります。とくに、静岡県出身者として静岡大学で研究・教育に従事されたことから、静岡県を中心とする地域の自然的特性を明らかにするとともに、それらの教材化と地学教育の普及に努力されました。

具体的には、1974年7月に静岡を襲ったいわゆる七夕豪雨、1976年7月に伊豆を襲った集中豪雨といった気象災害について、地域の自然特性と開発の問題点に関して鋭い指摘をされました。また、浜岡原子力発電所や静岡空港計画についても地形・地質・気象面から問題点を指摘するなど、研究の成果を地域社会に還元すべく、日本科学者会議・生活協同組合などの活動を通じて、積極的に社会性のある問題について発言されてこられました。

一方、地学教育についても、静岡県内のフィールドワークをテキスト化し、静岡県の地学教育の充実に大いに貢献されるとともに、最近では、静岡大学のカリキュラム改革に伴い新設された「主題別科目」において、地球環境・資源・エネルギーといった面から新たな講義を積極的に実践されました。

また、地元静岡県の小・中・高・大学を通じた地学教育・研究を充実させるために、1964年に静岡県地学会を結成し、運営委員および会長として、その発展に永年にわたって貢献してこられました。

静岡大学では、教養部が改組され、1995年10月から新しい体制のもとで教育・研究がなされます。このような激動の時代に、静岡大学地学教室・地球科学教室の生き字引とでも言うべき伊藤通玄先生がご退官されることは、後に残される者にとってたいへん残念ですが、先生が築かれました基礎の上に、地球科学の教育・研究のいっそうの発展に務めたいと思います。

ささやかではございますが、静岡大学地球科学研究報告の記念号を出版し、先生に捧げます。

1995年3月24日

教養部地学教室
里村 幹夫